

網膜血管腫について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
網膜血管腫	<p>◇症状</p> <p>小児にみられる網膜血管腫は、von Hippel 病ともいわれ、血管組織からなる過誤腫である。中枢神経系に血管腫を合併した場合は von Hippel-Lindau 病といわれる。滲出性網膜剥離、牽引性網膜剥離を生じることがあり、光凝固や硝子体手術が有効のこともある。成人にみられる網膜血管腫は、後天性血管腫とみられるが原因不明である。網膜反応性リンパ様過形成、寄生虫など炎症性疾患を鑑別する必要がある。腫瘍からの漏出により、硬性白斑、滲出性網膜剥離を生じたり、嚢胞様黄斑浮腫により視力低下をきたすことがある。網膜周辺部に発生することが多いため、早期に光凝固を十分施行することにより沈静化可能だが、牽引性網膜剥離を生じたり、黄斑浮腫をおこした場合は硝子体手術が有効かもしれない。</p>	<p>新潟大学大学院医歯学総合研究科 http://www.med.niigata-u.ac.jp/oph/pathology/retina.html</p>